

教 科 目	看護学概論	時間数（単位数）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク形式
講 師	敷田 美和	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 看護の変遷をふまえ、看護とは何かを学ぶことによって、看護の独自性や専門性について理解する。 2. 看護と深くかかわる「人間」「環境」「健康」について、広い視野から理解する。 3. 健康に障害を持つ人の、身体的・心理的・社会的特徴について概要を理解する。 4. 国民の健康・生活の全体像の把握を衛生統計及び健康指標と関連づけて理解できる。 5. 看護における連携と協働について理解する。 6. 専門職として、自己のキャリア形成の展望を持つ。		
教 科 目 内 容	1. 看護の原点と変遷 2. ナイチンゲールと「看護覚書」 3. 看護の役割と機能 4. 看護の対象（人間） 5. 健康とは何か 6. 国民の健康状態と生活 7. 看護における連携と協働 8. 看護職のキャリア開発		
授業予定期間	2026 年 4 月～7 月 第 52 期生 1 年次		
授業計画	1 回目：看護を学ぶにあたって 2 回目：看護の変遷 3 回目：日本における看護の歴史 4 回目：ナイチンゲールと「看護覚書」① 5 回目：ナイチンゲールと「看護覚書」② 6 回目：看護とは／看護の定義 7 回目：看護とは／看護の役割と機能 8 回目：看護とは／看護の継続性と連携 9 回目：看護とは：まとめ・グループワーク 10 回目：看護の対象の理解① 11 回目：看護の対象の理解② 12 回目：国民の健康状態と生活 13 回目：看護職の資格・養成制度・就業状況 看護職者の継続教育とキャリア開発 14 回目：} DVD 視聴 15 回目：} グループワーク・まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 1 看護学概論 （医学書院） 看護覚え書 （現代社）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	出席状況、レポート、終講試験		
備 考			

教 科 目	基礎看護技術		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義・演習形式
講 師	竹重 真佐美	佐藤 梢	園田 桂子	
所 属	専任教員	専任教員	専任教員	
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	
教 科 目 目 標	看護技術の概要と学習方法を理解し、看護実践に共通する技術について学ぶ。			
教 科 目 内 容	1. コミュニケーション 2. スタンダードプリコーション 3. 環境調整技術 4. 安全管理			
授業予定期間	2026 年 4 月～7 月		第 52 期生 1 年次	
授業計画	< コミュニケーション： 竹重 真佐美 > 1 回目（講義） コミュニケーションの構造とプロセス 2 回目（講義） コミュニケーション技法 (言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション) 3 回目（講義） コミュニケーションに障害のある人々への対応 4 回目（演習） コミュニケーション技法 < 感染防止： 佐藤 梢 > 5 回目（講義） 感染の成立と予防 6 回目（講義） 標準予防策 と 感染経路別予防策 7 回目（演習） スタンダードプリコーションの実際（手洗い、エプロン、手袋の装着脱） < 安全確保の技術： 佐藤 梢 > 8 回目（講義） 患者誤認防止策（ネームバンドの確認） 9 回目（講義） 転倒転落、外傷予防 < 環境整備： 園田 桂子 > 10 回目（講義） 環境調整の意義・援助の基礎知識 11 回目（講義） 病床を整える 12 回目（演習） ベッドメイキング 13 回目（演習） ベッドメイキング 14 回目（演習） 臥床患者のリネン交換 15 回目（演習） 臥床患者のリネン交換			
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる①基礎看護技術（メディックメディア）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験（コミュニケーション 25 点 感染防止 20 点 安全確保 15 点 環境整備 40 点） レポート			
備 考	到達レベルⅠの技術項目に関しては、学内実習の授業時間内で技術チェックを行う。			

教 科 目	日常生活援助技術Ⅰ	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・演習形式
講 師	佐藤 梢 ^{さとう ことえ}	山本 ひとみ ^{やまもと}	矢野 さゆり ^{やの}
所 属	専任教員	専任教員	専任教員
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	生活援助技術である食と排泄と移動の援助技術の基本を学ぶ		
教 科 目 内 容	活動・休息援助技術 食事の援助技術 排泄援助技術		
授業予定期間	2026 年 5 月～9 月 第 52 期生 1 年次		
授業計画	< 活動・休息の援助技術： 佐藤 梢 > 1 回目（講義） 活動の意義 活動に影響する要因、ボディメカニクス 2 回目（講義） 安楽な姿勢、体位保持（ポジショニング） 3 回目（講義） 休息と睡眠の意義、休息と睡眠に影響する要因、電法 4 回目（演習） 体位変換、ポジショニング 5 回目（演習） 移動、移送 < 食事の援助技術： 山本 ひとみ > 6 回目（講義） 食事と栄養の意義 健康な食生活と食事摂取基準 食事と栄養に影響する要因 7 回目（演習） 食事介助 8 回目（講義） 嚥下とは、嚥下障害のある人への援助、経管経腸栄養法、経静脈栄養法 9 回目・10 回目（演習） 経管栄養法 < 排泄援助技術Ⅰ： 矢野 さゆり > 11 回目（講義） 排泄の意義、排泄に影響する要因、自然な排泄を促す援助 トイレ、ポータブルトイレでの排泄援助 12 回目（演習） 床上での排泄援助の実際（便器、尿器での介助） 13 回目（演習） オムツ交換 14 回目（講義） 自然な排便が困難な人への援助、尿失禁・便失禁のある人への援助 15 回目（演習） グリセリン浣腸、摘便		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる①基礎看護技術（メディックメディア）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（食事：35 点 排泄：35 点 活動休息 30 点） レポート		
備 考	到達レベルⅠの技術項目に関しては、学内実習で技術チェックを行う。		

教 科 目	日常生活援助技術Ⅱ	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・演習形式
講 師	藤本 ゆり	佐藤 梢	
所 属	専任教員	専任教員	
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	
教 科 目 目 標	生活援助技術である身体の清潔援助技術の基本とバイタルサイン測定技術を身に付ける		
教 科 目 内 容	清潔・衣生活援助技術 バイタルサイン測定技術		
授業予定期間	2026 年 5 月～11 月	第 52 期生 1 年次	
授業計画	< 清潔・衣生活援助技術： 藤本 ゆり > 1 回目（講義） 身体清潔に関する看護技術① 皮膚の構造と機能、身体清潔の意義、衣生活、 身体清潔の援助（口腔ケア・部分浴） 2 回目（演習） 部分浴、口腔歯牙の清潔 3 回目（講義） 身体清潔に関する看護技術② 身体清潔の援助（全身清拭・寝衣交換・陰部洗浄） 4 回目・5 回目（演習） 全身清拭、寝衣交換 6 回目（演習） 陰部洗浄 7 回目（講義） 身体清潔に関する看護技術③ 身体清潔の援助（入浴・洗髪） 8 回目（演習） 洗髪 < バイタルサイン測定： 佐藤 梢 > 9 回目（講義） バイタルサインとは 体温と呼吸（SpO₂モニター含む） 10 回目（講義） 脈拍と血圧 11 回目（講義） 血圧測定の援助 12 回目（演習） 血圧測定 13 回目（演習） 血圧測定 14 回目（演習） バイタルサイン測定 15 回目（演習） バイタルサイン測定		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる①基礎看護技術（メディックメディア） 看護が見える③フィジカルアセスメント（メディックメディア）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（清潔：50 点 バイタルサイン測定：50 点）、技術試験 100 点 レポート 筆記試験と技術試験の両方が 60 点以上の得点でなければ単位修得とならない。		
備 考	到達レベルⅠの技術項目に関しては、学内実習で技術チェックを行う。		

教 科 目	診療の補助技術Ⅰ		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義・演習形式
講 師	園田 桂子	山田 由美子	柿本 満恵	
所 属	専任教員	専任教員	非常勤講師	
担当者実務経験	病院にて助産師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて WOC 認定看護師として勤務	
教 科 目 目 標	看護実践に共通する生体機能のモニタリングの方法と看護の役割、呼吸・循環について知る。			
教 科 目 内 容	診察・検査時の看護師の役割、呼吸を楽にする技術、創傷管理、看取りの看護			
授業予定期間	2026 年 10 月～ 2027 年 2 月		第 52 期生 1 年次	
授業計画	<診察・検査の介助： 園田 桂子 > 1 回目（講義） 検査とは 診察・検査時の看護師の役割、生体検査の介助（X 線検査、CT、MRI、内視鏡検査、超音波検査、心電図、肺機能検査、核医学） 検体検査（尿検査、便検査、喀痰検査） 2 回目（講義） 検体検査の介助（胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺） 3 回目（演習） 検査介助の実際 4 回目（演習） 検査介助の実際 <死の看取りの援助： 園田 桂子 > 5 回目（講義） 死にゆく人と周囲の人々へのケア キューブラー＝ロスによる 5 段階のプロセス グリーフケア 6 回目（講義） 日本文化のなかの葬送儀礼、死後の処置 <呼吸・循環を整える技術： 山田 由美子 > 7 回目（講義） 酸素吸入の適応と方法 8 回目（講義） 排痰法の適応と方法（ネブライザー吸入、ハフィング、体位ドレナージ） 9 回目（講義） 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法 10 回目（演習） 酸素吸入 11 回目（演習） ネブライザー吸入、一時的吸引（口腔、鼻腔、気管内） 12 回目（演習） ネブライザー吸入、一時的吸引（口腔、鼻腔、気管内） <創傷管理技術： 柿本 満恵 > 13 回目（講義） 創傷治癒過程とアセスメント 14 回目（講義） 褥瘡の予防と治癒の促進 15 回目（講義・演習） 創洗浄、創保護、包帯法			
科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる①基礎看護技術 ② 臨床看護技術（メディックメディア）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験（診察・検査 25 点、死の看取り 10 点、呼吸・循環 40 点、創傷管理 25 点） レポート			
備 考	到達レベルⅠの技術項目に関しては、学内実習の授業時間内で技術チェックを行う。			

教 科 目	診療の補助技術Ⅱ		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義・演習形式
講 師	かながわ 尚子 金川 尚子	やまもと ひとみ 山本 ひとみ	ふじもと ゆり 藤本 ゆり	
所 属	専任教員	専任教員	専任教員	
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	
教 科 目 目 標	1. 診療に伴う援助に関する基礎知識を述べることができる。 2. 診療に伴う基本技術を安全・安楽に実施できる。			
教 科 目 内 容	無菌操作、与薬法（注射法）静脈血採血、導尿、膀胱留置カテーテルの挿入・管理			
授業予定期間	2026 年 4 月～10 月		第 51 期生 2 年次	
授業計画	< 感染予防技術： 金川 尚子 > 1 回目（講義） 洗浄・消毒・滅菌法・無菌操作 2 回目（演習） 無菌操作（滅菌物の取り扱い、鑷子等の取り扱い、 感染性廃棄物取り扱い、使用した器具の感染防止の取り扱い） 3 回目（演習） 無菌操作 < 排泄援助技術 2： 金川 尚子 > 4 回目（講義） 尿失禁のある人への援助、一時的導尿、持続的導尿 5 回目・6 回目（演習） 一時的導尿 < 症状・生体機能管理技術： 山本 ひとみ > 7 回目（講義） 血液検査における援助の基礎知識 針刺し事故の防止、事故後の対応の方法確認 8 回目・9 回目（演習） 静脈血採血 < 与薬の技術： 藤本 ゆり > 10～11 回目（講義） 与薬における看護師の役割、薬剤の種類と取り扱い法、 与薬方法と効果の観察、経口薬の投与、経皮外用薬の投与 12～15 回目（演習） 注射器と取り扱い、皮下注射、筋肉内注射、 点滴静脈内注射、点滴静脈内注射の管理			
科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護がみえる①基礎看護技術 ② 臨床看護技術（メディックメディア）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験（感染予防 20 点 排泄 20 点 生体機能管理 20 点 与薬 40 点） レポート			
備 考	到達レベルⅠの技術項目に関しては、学内実習の授業時間内で技術チェックを行う。			

教 科 目	看護過程	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク形式
講 師	かながわ なおこ 金川 尚子 他複数教員	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 模擬患者を用いて、看護過程を展開することができる。 2. グループワークを通して、互いの意見を尊重し、議論することができる。		
教 科 目 内 容	看護過程 記録と報告の技術		
授業予定期間	2026 年 10 月～2027 年 2 月 第 52 期生 1 年次		
授業計画	【看護過程展開の技術】1～6 回 金川 1 回目 授業ガイダンス 看護過程における 5 つの構成要素 看護過程とは ＜事例から看護計画を考える＞ 2 回目 事例のプロフィールの記入 3 回目 事例のアセスメントを書いてみる（生活像） 4 回目 看護問題の明確化、計画立案の方法 5 回目 看護記録・報告について 6 回目 SOAP 記録 グループワークのオリエンテーション 7 回目～15 回目は以下の進捗でグループワークを行う。複数名の担当教員が担当する 7 回目 模擬患者からの情報収集 8 回目 情報収集用紙の記入の確認 9 回目 アセスメント① 10 回目 アセスメント② 問題点の抽出 11 回目 看護問題の抽出、優先順位とする根拠、問題リスト 12 回目 看護計画の立案① 13 回目 看護計画の立案② 14 回目 シミュレーション演習（実習室） 15 回目 看護計画の評価 ＜グループワーク前の事前学習内容＞ グループワークは、事例を用いて行う。カルテからの情報収集で必要な用語やアセスメント、看護計画の立案に必要な疾患看護の学習項目を配布、その後提出がある。		
教 科 書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント（学研）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 50 点 事前学習・課題提出状況及び内容・出欠状況（参加態度含む）50 点		
備 考	グループワークでは個人ワークをしていることが前提で進みます。 事前学習や課題への取り組みはスケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。		

教 科 目	ヘルスアセスメント	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・演習方式
講 師	かながわ なおこ 金川 尚子	だかいくみ とおこ 高倉 東子	やまもと ひとみ 山本 ひとみ
所 属	専任教員	専任教員	専任教員
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. フィジカルアセスメントを看護援助に活用する目的と意義を説明できる。 2. フィジカルイグザミネーションを正確かつ安全に実施できる。 3. 問診とフィジカルイグザミネーションの実施により、対象者の健康状態をアセスメントできる。		
教 科 目 内 容	フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメント		
授業予定期間	2026 年 7 月～12 月		第 51 期生 2 年次
授業計画	< 1～4 回： 金川 尚子 > 1 回目（講義・演習）身体計測（身長、体重、BMI、胸囲、腹囲、握力、皮下脂肪厚計測） 2 回目（講義）フィジカルアセスメントに必要な技術（視診・触診・聴診・打診） 3 回目（講義）バイタルサインのアセスメント 4 回目（講義・演習）消化器系のフィジカルアセスメント < 5～10 回： 高倉 東子 > 5 回目（講義）骨格・感覚器系のフィジカルアセスメント 6 回目（演習）骨格・感覚器系のフィジカルアセスメント 7 回目（講義）脳・神経系のフィジカルアセスメント 8 回目（講義）脳・神経系のフィジカルアセスメント 9 回目（演習）脳・神経系のフィジカルアセスメント 10 回目（シミュレーション演習）脳・神経系のフィジカルアセスメント < 11 回～15 回： 山本 ひとみ > 11 回目（講義）循環器系のフィジカルイグザミネーション 12 回目（演習）循環器系のフィジカルイグザミネーション 13 回目（講義）呼吸器系のフィジカルイグザミネーション 14 回目（演習）呼吸器系のフィジカルイグザミネーション 15 回目（シミュレーション演習）呼吸器系のフィジカルイグザミネーション		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I （医学書院） 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント （メディックメディア）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	1～4 回目：25 点 5～10 回目：40 点 11～15 回目：35 点 ※筆記試験、課題点、参加状況、レポートを含む		
備 考	解剖生理学の学習が活用できるように、しっかり復習をしておきましょう。 事前学習や復習、課題への取り組みを通して技術の習得を目指しましょう。		

教 科 目	臨床看護総論	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	なかにし まこと 中西 誠	所 属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1.健康状態の経過に基づく看護の概略を理解する。 2.主要な症状を示す患者の看護の概略を理解する。（症状発生機序を理解する） 3.治療処置を受ける患者の看護の概略を理解する。 4.関連図作成を通して、看護の実践展開の概要が理解できる。		
教 科 目 内 容	1. 経過別看護 2. 症状別看護 3. 治療・処置別看護 4. 看護実践の展開		
授業予定期間	2026 年 11 月～2027 年 2 月 第 52 期生 1 年次		
授業計画	1 回目：ライフサイクルからとらえた対象者のニーズ 2 回目：対象者と家族の健康上のニーズ 3 回目：急性期の看護 危機モデル 4 回目：回復期看護 慢性期看護 5 回目：終末期における看護 6 回目：呼吸機能障害を示す対象者への看護 7 回目：循環に関連する症状を示す対象者への看護 8 回目：栄養・代謝・排泄に関連する症状を示す対象者への看護 9 回目：活動・休息に関連する症状を示す対象者への看護 10 回目：コーピング・安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 11 回目：輸液療法 化学療法 12 回目：放射線療法 手術療法 13 回目：集中治療 14 回目：医療機器とその実際 15 回目：まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論（医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（グループワーク態度・成果物・レポート点含む）		
備 考			

教 科 目	小児看護学方法論Ⅲ	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義・演習
講 師	宮井 由記	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 小児に必要な基本的看護技術や生活援助法について理解する 2. 小児の特徴をふまえ、看護過程の展開の方法を理解する		
教 科 目 内 容	小児看護技術 看護過程		
授 業 予 定 期 間	2026 年 4 月～5 月 第 50 期生 3 年次		
授 業 計 画	1 回目：小児の看護技術（講義） コミュニケーション 2 回目：小児の看護技術（講義） バイタルサイン測定 3 回目：小児の看護技術（講義・演習） 身体計測・更衣・おむつ交換 4 回目：小児の看護技術（講義） 採血・採尿・与薬・吸引・経管栄養 骨髓穿刺・腰椎穿刺の介助 処置や診察時の援助 5 回目：事例を用いた小児看護過程の展開 1（講義・演習） 6 回目：看護過程の展開 2 （演習） 7 回目：看護過程の展開 3 （演習） 8 回目：看護過程の展開 4 （演習）		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） パーフェクト臨床実習ガイド小児看護 （照林社）		
受 験 資 格	10 時間以上の出席		
評 価 方 法	出席状況・態度・課題レポート・終講試験で総合評価		
備 考			

教 科 目	母性看護学方法論Ⅲ	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義・学内実習 グループワーク形式
講 師	かみばら まゆみ 神原 真弓	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 周産期の看護過程の展開方法が理解できる 2. 周産期における看護技術について理解できる		
教 科 目 内 容	1. 周産期の看護過程の展開 2. 周産期における看護技術		
授業予定期間	2026 年 4 月～5 月		第 50 期生 3 年次
授業計画	1 回目 母性看護における看護過程 ウェルネス看護診断の考え方 2 回目 看護過程の実際①（プロフィール作成） 3 回目 看護過程の実際②（アセスメント） 4 回目 看護過程の実際③（アセスメント発表会） 5 回目 看護過程の実際④（看護診断リスト） 6 回目 看護過程の実際⑤（NST 装着、判読） 7 回目 DVD 学習（沐浴、妊婦健康診査） 8 回目 （学内実習）（沐浴、子宮底長測定、妊婦体験）		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論 (医学書院) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第 3 版 (医歯薬出版株式会社)		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	試験・課題・講義参加状況・レポート		
備 考			